

館山「川と海」再生プロジェクト

「安房の海を守り育む会」の活動



当会は「ふるさとにきれいで豊かな川と海を」を合言葉に、2001年に発足いたしました。以来24年間毎週末に活動を継続してきています。有機物等を分解してくれる有用微生物群EMの力で川と海の浄化再生を行い、昔のようなきれいで豊かな海に戻して観光と漁業の発展に貢献し、今と未来の子ども達に館山を心癒す地にして引渡したいと思っています。このため、現在培養したEM活性液を3つの河川を通じて年間約15万リットルを館山湾に放流しています。

EMは、国立琉球大学の比嘉教授が40年前に開発した技術で、世界120ヶ国で活用されています。また、当会では環境と人体にベターな有機農業推進法に基づくEMの農業への活用を推奨しています。

活動の成果

当会がEMの放流を開始した2002年夏 東京から館山湾にウィンドサーフィンに来ていた青年が「こんなに海底がヌルヌルして気持ちが悪い海は見たことが無い。二度と館山湾には来ないにしよう」と話していました。那古船形の遠浅の海も、ヌルヌル、ブカブカしており、とても生物（貝、カニ、海老）が生息できる環境ではありませんでした。

このような状況を改善しなければならぬと2012年までの10年間、当会では土・日曜のEM放流活動を一度も休まず行いました。その結果、昔のようにサラサラの砂地を取り戻し、どんどん川、宇田川、汐入川の汚泥や悪臭は激減し、宇田川での汚泥消失量は当会の推計で1,000立方メートルに及びます。同川には、小魚やカニが復活し小魚を狙うカワセミまで飛来するようになりました。

2004年には、県絶滅危惧種のナミノコ貝（2枚貝で食用できる）が館山湾に30年ぶりに復活し、2006年には那古海岸でサルボウガイ（アカガイの仲間）が40年ぶりに発見されました。さらに2015年には、およそ半世紀ぶりにマテガイが大量に発生し、アサリ、ハマグリが発見の報告も何度もありました。

しかし、私たちが使用している合成洗剤や有機物を流している限り、当会はこの活動を続けなければなりません。何故なら、川や海の有機物等を分解し小動物（海草を含む）の餌にして、川や海の浄化再生を促し生態系循環の基礎を作っているのは微生物なのですが、化学物質（合成洗剤、除菌剤、柔軟剤等）は、その有用な微生物群を殺してしまいます。

今後の環境問題は、合成化学（洗剤等）から分解科学（EM等の微生物）への移行と発展だと思っています。当会は「21世紀は微生物が地球を救う」と言っている著名な微生物学者の言葉に共感しています。



様々な鳥が飛来



サルボウガイ ナミノコガイ

あとから来る者のために

坂村 真民

あとから来る者のために

田畑を耕し

種を用意しておくのだ

山を

川を

海を

きれいにしておくのだ

ああ

あとから来る者のために

苦労をし

我慢をし

みなそれぞれ力を傾けるのだ

あとからあとから続いてくる

あの可愛い者たちのために

みなそれぞれ自分ができる

なにかをしてゆくのだ

坂村 真民（さかむら しんみん）

1909年（明治42年）生まれ

高校の国語教員。

詩人、仏教伝道文化賞等を受賞。

この詩は当会の本源であり、

活動の支えとなるものです

【後援】

館山市／館山市教育委員会／館山市観光協会
館山商工会議所／房日新聞社



<http://npo-awanoumi.org>

認定NPO法人 安房の海を守り育む会

〒294-0057 館山市川名656 TEL 0470-20-5022

FAX 0470-27-2464

